

派遣報告書（報告者：佐田明美）

大会名	令和6年度国民スポーツ大会第44回九州ブロック大会 バasketボール競技
開催地	宮崎市総合体育館（成年男女）、早水公園体育文化センター（少年男女）
日 時	令和6年8月24日（土）・25日（日）
担当ゲーム	（成年女子予選リーグ）沖縄県 vs 長崎県
クルー	CC:柿原実（福岡県） U1:佐田明美 U2:野田宏樹（熊本県）
（担当ゲーム）Pre-Game Conference	
・予選リーグ3チームの1勝同士なので、勝ったほうが佐賀国スポの出場権を得ることになる。 ・高校生ではあるが外国人選手を日本人選手がどう守るのかを手厚く見ていく。ペイント内はクリアにしたい。 ・プライマリー、ペイシェントホイッスル、ケイデンスホイッスルの意識を持つ。 ・センターサイドコフィンコーナーでプレッシャーディフェンスがあった場合は、リードが早めのローテーションでセンターを押し上げる。 ・T0は各県の社会人が担当してくれるので、安心してコミュニケーションをとりながら、進めていく。	
（担当ゲーム）Post-Game Conference	
・特に1Qで、U1,U2は「見つけて吹いている」。CCは我慢してみているので、判定基準の差を感じた。 ・クルーとして、プライマリーがアングルを取れずに判定できない部分では、CCメンタリティを発揮して、セカンダリーの笛を入れる必要がある場面があった。（やった、やられたを誰が見ても分かる場面） ・规则的に審判として正しい判定をしていますが、それを吹くタイミングやデリバリーの仕方（その場にいる人のみでなく、観客も含めて全体への伝え方）をこのゲームを振り返って、引き出しを作っていく。今日やったことがダメというわけではなく、もっと良いタイミング、もっと分かりやすい伝え方ができないか今後のゲームに生かすことができるように材料を持っておく。	
今大会に参加しての感想など	
自分では1Qのテンポセットとして判定をしていたつもりだったが、アドバイスをいただいたり、映像で見返してみると、それが「探して見つけて吹いている」と言われたことがよく分かった。落ち着いて吹いたつもりが全く落ちていなかった。これまで、意識して研鑽を積んできたつもりであったが、「つもり」だけで、できていなかったことが露呈し、自分で吹いて振り返りをするだけでなく、やっぱり誰かに見て評価やアドバイスをもらうことが、継続して力をつけていくためには、私には必要なプロセスだと強く感じた大会であった。 また、今回はJBAから講師を迎えたA級の更新講習であったため、普段では聞くことができない話をたくさん聞くことができた。JBAが目指している方向であったり、トップリーグを吹いている審判の方々が感じていることや実践していることを話していただいたり、ポストゲームカンファレンスでは、インストラクターとしての言葉の選び方や話の方向性も学ぶことができた。 このブロック国体の実技研修の前には、「CCメンタリティを発揮するためには」、「エッジを超えるためには」とのテーマでウェブ研修をおこなった。自分自身の力にするための研修ではあるが、ブロック国体に参加できたからこそ得られた体験や情報を、県内に伝える必要があると感じた。「ペイシェントホイッスル」、「ケイデンスホイッスル」、「ヘルプディフェンダーをリードレフリーが把握する」。県内でも言葉としては浸透しつつあるが、言葉だけを伝えるだけでなく、その中身を理解してもらえるような伝え方を工夫したり、私たちが実践して見せていかなければA級として、研修に参加したことを県内の審判に伝えていくことができない。 A級審判として、自分の力を高めていくことはもちろんであるが、県内で協力して全体の審判レベルを向上していくこと、それが、今回予選を勝ち抜いて佐賀国スポの出場権得た少年男子のように、県内のBasketボールレベルの向上に、審判としてもかかわっていくことができるのではないかと考えている。 県外派遣をいただく度に、たくさんの課題が見つかり、新たな発見がある。このような経験をさせていただいた大分県Basketボール協会、審判委員会の皆さま、準備、運営をくださった宮崎県Basketボール協会の皆さま、九州協会、JBAの講師の皆さま、大会にかかわったすべての方々に感謝申し上げ、報告といたします。	